

第4回環境やまがた大賞受賞

贈呈式は、平成15年3月12日、知事室において行われました。

受賞団体の概要

地球環境保全活動分野

「ログバケーション倶楽部たかはた」(代表 大川謙蔵)(高畠町)

地域木材利用による中山間地域振興と、地球環境保全プロジェクトをログバケーション構想により展開。「自然の恵みのなかで、実りのあるライフスタイルをもとめて！」をテーマに、間伐の必要性と、間伐材の有効活用が地球環境の保全や森林公益性の支援、人工林の育成、地域振興などにつながるという「ログバケーション構想」により、地域振興と、地球環境保全プロジェクトを展開している。

- ・平成5年:紅花の里づくり、間伐材利用の木工クラフト開始
- ・平成6年:「グリーンツーリズム」構想。高原大根などの野菜づくり、「オーナー制舞茸園」開始
- ・平成9年:「たかはたの山小屋」構想。ポスト&ビーム型のログハウスの設計・建築、工法研究
- ・平成11年～13年:「高畠町地域おこしふれあい事業」に採択。丸太材を活用したログ工作教室と 製品開発丸太工作治具及び工作機械等の設計・試作、地域木材利用の家づくり。
- ・山形県主催の「テクノロード山形」「農林まつり」や、高畠町主催の「林業まつり」など 多数の展示会に出展。

地域環境保全活動分野

「国立鶴岡工業高等専門学校」(校長 野中 勉)(鶴岡市)

(1)ソーラーカーの普及啓発および実践活動

ソーラーカー製作とソーラーカーラリー参戦による実践活動および地域社会に対するソーラーカーの普及啓発活動を実施。

- ・1994年から毎年ソーラーカーを製作し、ソーラーカーラリーに参戦。
- ・製作したソーラーカーはラリー参戦のみならず、鶴岡高専の学校開放行事、地域団体の行事等に参加し、地域環境の保全と創造の普及啓発活動に貢献している。

(2)学校、学寮でのゴミ分別、地域社会と一緒の美化活動

平成9年、「環境保全委員会」を設置。学校、学寮ともに教職員・学生が一体となりゴミ分別に取り組む。又学寮生は、地域住民(塔和会)と美化活動に取り組んでいる。

環境技術研究開発分野

「太陽建築研究所 井山武司」(平田町)

太陽エネルギーを最大限に活用しようとする設計技術である太陽建築(ソラキス)の設計・普及を実施。

- ・自然採光:室内の奥まで採光
- ・直接熱取得太陽暖房:冬の太陽光を建築内部に導き入れ躯体に蓄熱。超断熱と、Low-E ガラスの利用で、シミュレーションでは補助暖房は不要。
- ・躯体蓄冷自然冷房:夏は太陽光を庇によって避け、風を通して躯体を蓄冷し、建築内の発生熱を吸収し、自然冷房。シミュレーションでは補助冷房は不要。
- ・太陽熱給湯・太陽光発電、住まいのデザイン(緯度と同じ勾配の屋根勾配など)、建築資材の選択により、

生活に必要なエネルギーのほとんどのエネルギーを太陽光から得ることができる。

- ・42棟の建築実績があり、公共施設として「光が丘公園太陽の家(酒田市)」などがある。太陽の家の床面積1平方メートル当たりのエネルギー消費量は、年間 80kw と、日本の業務用建築物のエネルギー消費量 330kw の 25%以下。

「有限会社ワーコム農業研究所」(代表取締役 栗田幸太郎)(真室川町)

微生物を利用した微生物応用土壌改良資材(「うまみの素ワーコム」)を開発し、農業生産における環境保全型農業を推進。ワーコムの中の色々な酵素が土の中の有機物を分解し、微生物の働きを活発にさせ、栄養豊かな土をつくる役目を果たす。

また、ワーコムに含まれる微生物の分解能力に着目し、NPO や消費者団体等と連携した汚泥や生ごみ等の減量化、環境保全型トイレへの応用にも取り組んでいる。

- ・昭和 56 年:土壌改良(微生物)資材の研究開発に着手
- ・平成 11 年:堆肥素材発酵促進料「うまみの素ワーコム」で特許取得
- ・同資材を使用して栽培した米について「ワーコム米」として商標登録
- ・平成 12 年、13 年:NEW 環境展に汚泥処理・生ごみ機器等の資材として出展
- ・平成 13 年:宮城県内において水を使わないエコトイレ用の資材として実証開始
- ・平成 14 年:山形大学との共同研究事業を開始
- ・第 1 回全国ワーコム山形大会を開催(天童市、真室川)
- ・真室川町女甕山のエコトイレ用資材として提供